

【特選】

トラの尾を役者が踏んだ六本木

田口 立吉

「虎の尾を踏み、毒蛇の口を逃れ」たのは『勸進帳』の弁慶だが、その弁慶役者がお芝居ならぬ実演に及ぼうとは……。オン曹司とあがめられての思いがりがなかったか？

【秀逸】

中国がアジアへ小分けするメダル

川辺 大柳

アジア大会のガキ大将よろしくメダルを独り占めして国威を誇示。思えば極東大会と呼んだ頃の日本がそうだった。「小分けする」がうまい。いかにもそのとおりだ。

四島の魚が泳ぐ袖の下

佐々木福太郎

地獄の沙汰も金次第というが、ロシアのE E Z（排他的経済水域）といえど多聞に漏れず。5億円の「袖の下」で泳ぐスケトウダラは、一体どんな味がするのだろうか。

政局を任せてみたい伊達直人

島崎 肇

同じナオトでも、しよぼくれた話題ばかりの菅さんとはこと変わり、こちらは新春早々の日本にパッと明かりをとますような話題の主。バラまきも少しは見習ったら。

お色直しやがて消え去るマニニフェスト

川村 雄一

売り物のマニフェストのここをいじり、あそこをいじりしているうちに、そんなものがあつたのかというほど原型からは遠くなっていく。かんじんの支持率を連れて。

素材としては一番新しいのが民主党の改造内閣誕生で、あとはほとんど旧年中の事件ばかりなのはさびしいが、逆に二〇一〇年の集大成のようになった。

特選の市川海老蔵事件や、秀逸のアジア大会（中国）をあえて上位に推したのも、このテーマでの最優秀句を、後世に残しておきたいからだ。これが、新聞など発行間隔の短い媒体と、本誌との違いで、本誌掲載の句には、だから完成度の高いものが望まれる。

テーマへの対応は速いに越したことは無いが、作品を作り急ぎすることはないのが、新聞とは違ふところ。時事川柳の《3S》（センス・スピード・スタイル）のスピードも、速吟よりは当意即妙を言ったもので、早い者勝ちとは意味が異なることを銘記してほしい。

総理にはもうタケシしかいなくなり	鈴木	寿子
与謝野です矢でも鉄砲でもどうぞ	同	
百二十兵を集める一兵卒	同	
仮免の人で糊口を凌いでる	同	
直人より光る直人のランドセル	山口	早苗
デコちゃんを屠蘇に浮かべる寒い春	同	
レアアースここ掘れワンの日本海	同	
アドリブの効かぬ可視化の検挙率	同	
民主党二つに割れる鏡餅	同	
マスクからマスクを繋ぐランドセル	島崎	穂花
成人の夢は手堅く正社員	同	
全国に善意が跳ねる年始め	小林	寿夢
内ゲバでけりを付けるか民民主党	同	
改造で蓋あく昔のおもちや箱	同	
逃げ切りを図る小沢の二枚舌	同	
雑壇に出す廃材のリサイクル	尾藤	一泉
不条理をまた泥舟へ積み替える	同	
仮免で世界を渡る日本丸	同	
クニマスが息吹き返す長い旅	塩見	佳代

海老サマを睨み返した西麻布	同	
成田屋の面子を削る高い鼻	同	
看板を看板にする日本ハム	同	
二十四の瞳静かに目を閉じる	島崎	肇
下馬評は足軽ばかり都知事選	同	
民主党鏡を見ると自民党	佐々木	福太郎
海猿が三猿に問う正義感	同	
沖繩がだんだん攻めの基地になる	川辺	大柳
宰相は無いものねだりして疲れ	同	
テールには是非非の無い北の国	川村	雄一
微動だにせぬ天国の双葉山	河口	世詞
タイガーが小選挙区を駆け回る	田口	立吉
隣国に鹵軋りだけのメッセージ	小野寺	帆平
お飾りも祭りが済めば仕舞われる	川那部	つぼみ
政権は二区でタスキが途切れそう	久保	昭二
クニマスも招かれていた園遊会	黒田	伯林
首都圏にホースの雨が降っただけ	失	名氏
子は金蔓仮面の親が増殖す	松原	幸子
延命へ臓器移植をする総理	佐藤	ヒサ
	三十尾	維大

現在、マスコミに真の「時事川柳」はありません。伝統ある時事川柳が方向を失い、路頭に迷う前に、いかなる聖域も持たない、限りなく自由な時事風刺川柳を、本欄で再び募集いたします。奮って自信作をお寄せください。

投稿規定は、メール（件名は「目」と記載）またはハガキ一枚に一句、枚数に制限はありません。締切随時。尾藤三柳責任選。年度賞（時事大賞）の対象になります。投句専用メール seiryu-koron@doctor-seiryu.com